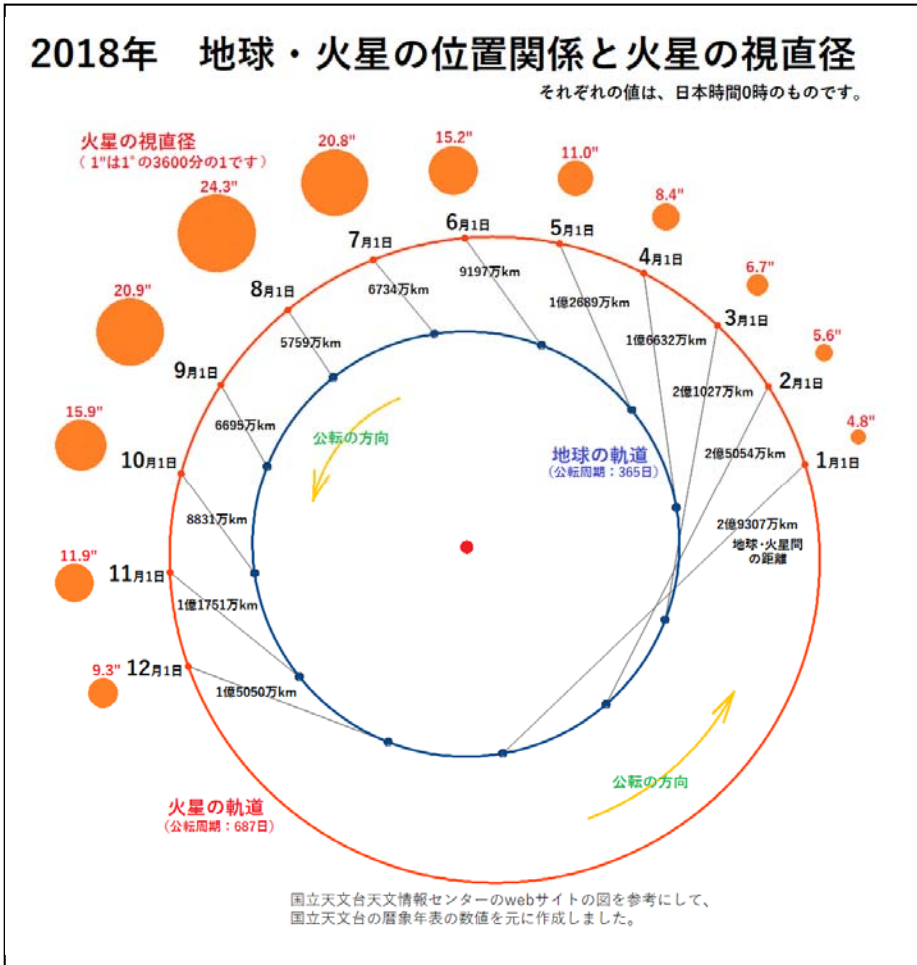


つき わくせい もけい つく 月や惑星の模型を作ろう



火星は、地球のすぐ外側を回っている惑星です。直径は地球の半分ほどと小さい上に、最も近いときでも地球と月の距離の150倍も遠いので、望遠鏡でも、赤い色をした小さな点のようにしか見えないことが多いのです。それでも、地球に近づいたときは、少し大きく見えるようになり、望遠鏡で表面のもう少し見えるようになります。

今年の7月から9月にかけて、火星が地球の距離がとても小さくなります。県内の各地にある

公開天文台などで、火星の観望会が開かれるので、参加してみましょう。そのときに使える便利な模型を作ります。

工作

火星などの惑星や月は、ボールのような丸い形をしています。望遠鏡で見たときに、そのどの部分が見えているのかを知ることができたら楽しいですね。型紙を切って発泡スチロールの球に貼っていく、地道な工作ですが、あなたも「小さな月や惑星」作りにチャレンジしてみませんか。



左から、月、火星、木星です。地形や模様をみるための模型なので、天体どうしの大きさの比率を表してつくられてはいません。